特定非営利活動法人チームふくしま

主な活動場所：福島県福島市

主な取組① 福島ひまわり里親プロジェクト

ひまわりを活用した東日本大震災復興事業です。全国の人々が"里親"となってひまわりの種を育て、採れた種を福島へ送り、その種を福島県内の人々が育て、採れた種を福祉作業所で搾油後、バイオディーゼル燃料に精製し、福島市内を走る循環バスの燃料の一部等に活用します。

日本全国と福島の絆を深め、福祉作業所で働く障がい者の雇用創出や防災教育の推進、「ひまわり結婚式」や「ひまわり甲子園」等のイベント開催を通じて福島県の観光促進に繋げています。また、震災・原発事故についての伝承伝達および防災意識を高めることを目的に、「ひまわり防災検定」を実施しています。

【ひまわり結婚式で挙式された新郎新婦】

【福祉作業所で働く利用者の作業風景】

【全国の参加者より福島へ届いた種から咲いたひまわり（田村市）】

【ひまわり防災検定受験の様子】

【ホームページ】

【紹介動画】

主な取組② お互いさまの街ふくしま

「お互いさまチケット」の普及を通じてお互いさまの思いと恩送りの輪を広める活動です。また、就学援助や児童扶養手当、奨学金の受給者を対象に、無料で食料品・日用品を提供する無人型子ども食堂「コミュニティフリッジひまわり」も一環として行っています。

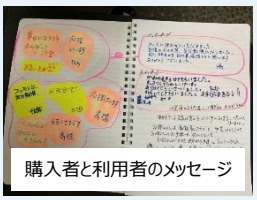
「お互いさまチケット」とは、お客様がチケットを購入する事で、他のお客様が無料または低価格で食事やサービスを受けられる仕組みです。様々な業種で導入されており、利用者と購入者の区別がつきにくく、困窮世帯にも利用しやすくなっています。チケットを通じて子ども食堂や体験の貧困解消、寄付や恩送りの体験にもなり、設置企業・団体側は負担0でSDGsが気軽に表記できる団体や企業の価値の創造ができ、働く人の喜びや採用、職場内、顧客との関係性の質の向上につながります。寄付者はチケットが気になり来店動機やマーケティング、SNS投稿等広告にもつながり、寄付文化向上にも寄与する仕組みです。設置団体や企業、チケット利用者、寄付者、世間の四方よしのモデルとなっています。

無人型子ども食堂「コミュニティフリッジひまわり」は出入口が電子ロック管理の為、アプリで利用時間に自由に出入りでき、人目を気にせず利用できます。寄付品の陳列や掃除を福祉作業所に仕事として依頼をし、雇用創出に繋げ、福祉作業所が仕事を通じてチェンジメーカーとして社会課題を解決するメンバーとして活躍しています。そして、福祉作業所のお仕事になるので無人食糧庫・子ども食堂の利用者の皆様が利用しやすい「福福連携モデル」としてソーシャルデザインの場所です。利用者が自立できるよう、就職情報や相談場所の情報も掲示・発信し、支援しています。持続可能なモデルとするべくマンスリーサポーターを募集させていただいています。

お互いさまの街ふくしまは会員制で、会員となった企業、店舗には研修動画や資料等を送らせていただき、導入後はSNS等で発信させていただきます。

導入の様子

〈HAPPY HAPPY CURRY様〉



購入者と利用者のメッセージ

〈美容室ぴいす様〉

【お互いさまチケット】

【ホームページ】

【紹介動画】

室内の様子

利用者と寄付者からのメッセージ

【コミュニティフリッジひまわり】

【ホームページ】

【紹介動画】

〒960-8055 福島県福島市野田町6-7-8 ツインコートB103
【H P】https://www.sunflower-fukushima.com/index.html
【TEL】024-563-7472
【MAIL】info@sunflower-fukushima.com（担当：山田）

団体まとめサイト　理念　動画